

2012(仏暦2555)年10月号(第80号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

りんじゆう よ あし
"臨終"の善し悪し

■仏事のイロハ

「御霊前」とは書きません！

■本願寺の本

浄土真宗はじめの一步

■お知らせ、編集後記

Photo

栗の季節です。先日、栗で有名な小布施町おぶせに行って、今年の栗で作ったモンブランをいただきました。(店によっては、昨年の栗を使うようです)本場の栗は美味しかったです。

住職 法話

臨終の善し悪し

坊守(妻)が、ある女性から聞いてきたお話です。

その方のご主人は、病がちで、自宅で療養中に急に苦しみだして救急車で運ばれ、亡くなられました。そして、あるお寺さんにお葬式を頼みました。その時の住職からのお話に驚かされたという相談らしいのです。それは、「ご主人は、首つり自殺をした時のような苦しみをもって亡くなられたのですよ。」といったことを住職から話されたというのです。お葬式を済ませなくてとは、その時は聞き流していたようですが、後になって、その言葉が耳について仕方なかったそうです。確か

に、急に苦しみだして亡くなっていったのですからわからないことはないですが、例えがあまりに露骨すぎて：というところで、初対面のお寺さんからこんな話しをされるとは思ってもいなく驚いたということです。坊守本人も、そんなご法話を聞いたことがなく驚いていました。

お寺の宗旨はわかりませんが、まず浄土真宗ではないことは確かです。(浄土真宗でしたら問題ありますが…)ある宗旨では、臨終の相といつて、亡くなる時の顔色や形相を気にする教えもあると聞きます。

人が亡くなる時の臨終に

関して、親鸞さま八十八歳、乗信房に宛てた御消息(お手紙)にお示しになります。

私自身としては、どのような臨終を迎えようともその善し悪しは問題になりません。信心が定まった人は、本願を疑う心がないので、正定聚の位に定まっています。ですからこそ愚かだ智慧のない私たちであっても尊い臨終を迎えるのです。あなたが人々におっしゃった、すべて阿弥陀仏のはたらきによつて浄土に往生するということは、少しも間違っていない。長年の間、私が皆さんに言うてきたことと、異なつて

いません。決して学者ぶつた議論などなさらずに浄土への往生を遂げて下さい。

信心定まった人は、もうすでにお浄土に生まれる仲間(正定聚)となつているのであるから、臨終の善し悪しは問題ではないと言われるのです。また、そんなことをあれこれと議論することでもないと言われます。

あの人は静かな往生だったとか、苦しんで往つたとか、人生の終わりがどうだったのかが問題なのではなく、今生かされているこの時こそが大切なのですよと、あらためて深く味わうお言葉でもあります。



ハロイの事 仏事のイロハ

「御霊前」とは書きません！

前号で、御布施というものは、報謝ほうしゃの念から如来さまに捧げるもの”であると申しました。実は、浄土真宗の仏事における金封のお供えは、すべてこうした御布施なのです。

しかしながら、実際には、仏事の種類や状況によってさまざまに「表書き」が用いられているようです。

いくつかのケースに分けて述べますと―。
まず、葬儀や法事などで喪主（施主）が僧侶に差し出す金封には「御布施」と書かれることが多いようです。これでよいのですが、この「御布施」は僧侶に差し上げるため

のものではなく、お寺のご本尊・阿弥陀如来にお供えするものですから、差し出す時には、お盆にのせ「おこつづけして失礼ですが…」とかの言葉を添えるのがよいでしょう。ていねいな所では、前もってお寺に直接持参されま

す。
「御布施」以外の、例えば「御札」「御経料」「回向料」などは、如来さまに捧げる趣旨から言って、ふさわしくありません。

次に、他家の葬儀や法事に参列する場合です。市販されている仏事関係の本の中には「葬儀の時は「御霊前」とする」などと書いてあったり、「御霊前」の文字を印刷した金封まであったりしますが、故人の「霊」に供えるのではなく、如来さまに供えるので

すから「御仏前」です。ほかに「御供」「御香典」「御香資こうし」などが使われています。香典や香資は「香を求めたための代金」という意味で、昔は、お供えといえれば代表的なものがお香だったのでしょうか。

また、お仏壇新調の時の「入仏法要」など慶事には、少し趣旨が異なりますが「御祝」としてもよいでしょう。

最後に、お寺にお参りした時には、「御布施」「御供」「御仏前」などのほかに「志」というものがあります。これは「お寺のために役立ててほしい」という思いの表れです。



水引の色は、葬儀、中陰など悲しみの時は黒白または紅白、その他の時は黄白が一般的です。

ポイント

- 僧侶に差し出す時は「御布施」
- 「御経料」「回向料」はダメ。
- 「御霊前」ではなく「御仏前」

● 報恩講の時は赤の水引に―。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より」

「任職談」表書きには、皆様悩まれるご経験があると思います。私たち門徒は、「霊」は使わないのではなく、全て「仏」で「霊」など元からないということです。「御霊前」と書きながら、「仏さまへ…」ではおかしいでしょう。

～本願寺の本～

『浄土真宗はじめの一步』

森田 真円/釈 徹宗 著

本願寺出版社刊 定価:1,260円(税込)

「キーワードで学ぶ浄土真宗の教え」「浄土真宗の先祖供養とは？」をはじめ、お仏壇のお飾り、焼香の作法、おつとめ、浄土真宗の葬儀などを解説。本書を手にも、浄土真宗のはじめの一步を踏み出そう。(商品説明より)



浄土真宗のことを気軽に学べる入門書になります。絵もカラーでわかりやすく読めると思います。

お知らせ

この10月28日(日)は万行寺の報恩講法要でした。「親鸞聖人750回大遠忌法要」を勤めさせていただきました。

小雨降る少し肌寒い日ではありましたが、「宗祖讃仰作法(音楽法要)」で門信徒方々と共に勤めをしました。ご法話の後、お茶を頂きながら皆さんでお話しの輪が広がりました。大遠忌法要という良いご縁をいただきました。

編集後記

ここ最近の「住職法話」は、他宗と比べるとという傾向になっってしまったようです。批判ではないかと少し反省をしているところです。◆しかし、「昔からやっているから」とか「こういうものだ!」といったお寺側の一方的な仏事は、大切な方を亡くされ悲痛な思いを考えているご遺族のことを考えていないのではないのでしょうか。◆人それぞれ苦しみや悩みは違います。〃応病与薬〃という、本来のお釈迦さまのご説法に立ち返ることをしなくてはならないと感じるからです。

